

2 芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）

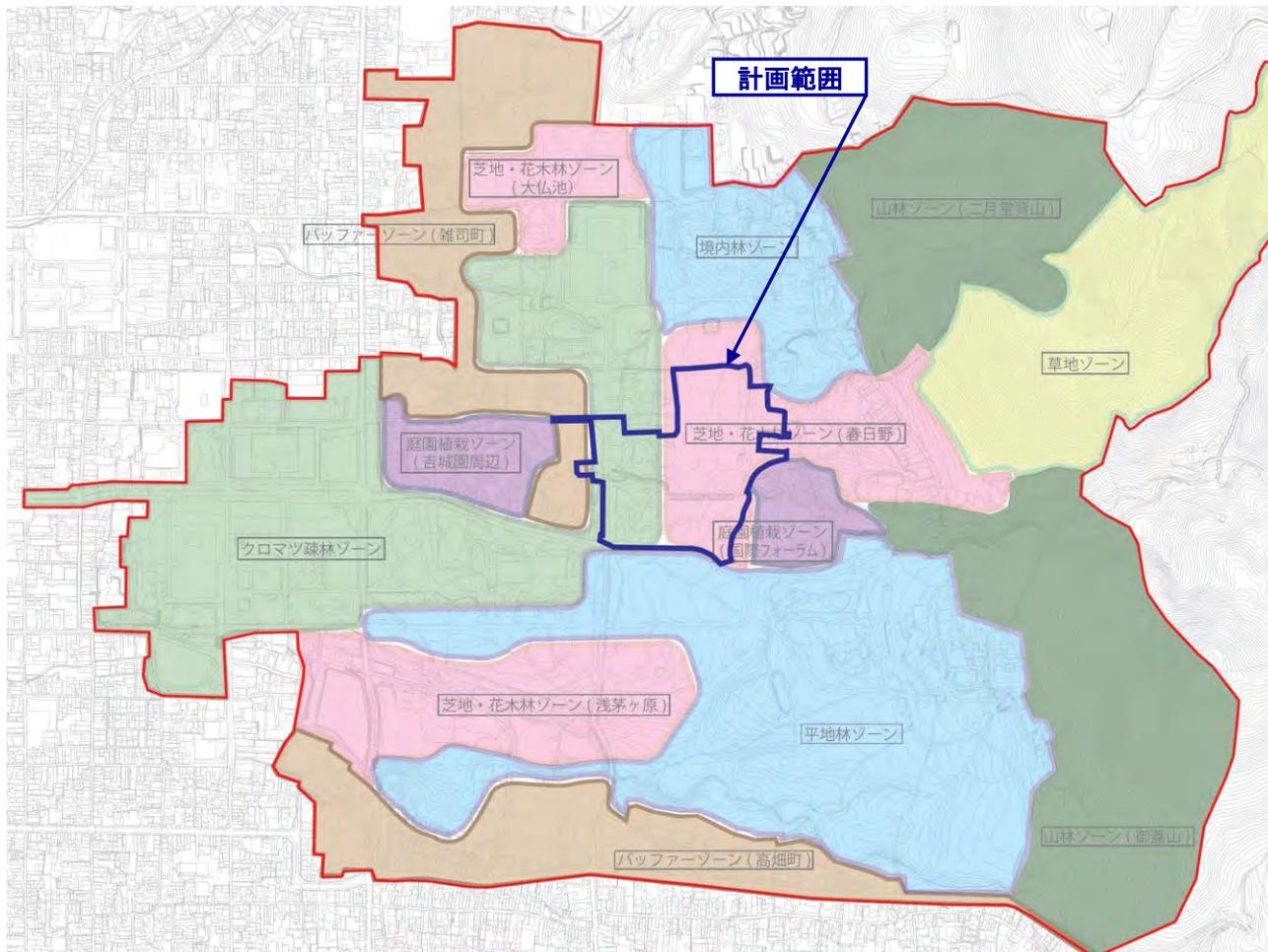
目 次

2-1	芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）植栽計画	62
2-2	芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）実施計画	74

2-1 芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）植栽計画

(1) 計画範囲

計画範囲は、芝地・花木林ゾーン（春日野園地）及びクロマツ疎林ゾーンの一部分とする。



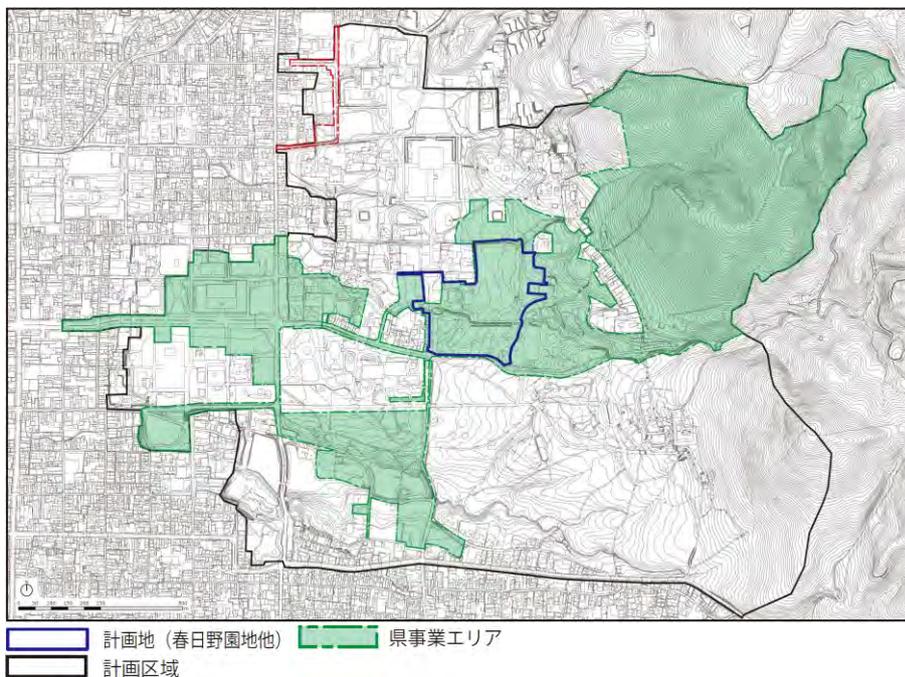
○面積 約9.4ha

○土地内訳 県事業エリア（都市公園：奈良公園） 約8.9ha
東大寺境内 約0.5ha

(2) 計画地の特性

特性－1 計画地の立地

計画地は、公園全体の計画区域のほぼ中央に位置し、その範囲の大半は都市公園区域に含まれており、都市公園としての奈良公園の中心的役割を担っている。



図：計画地の位置

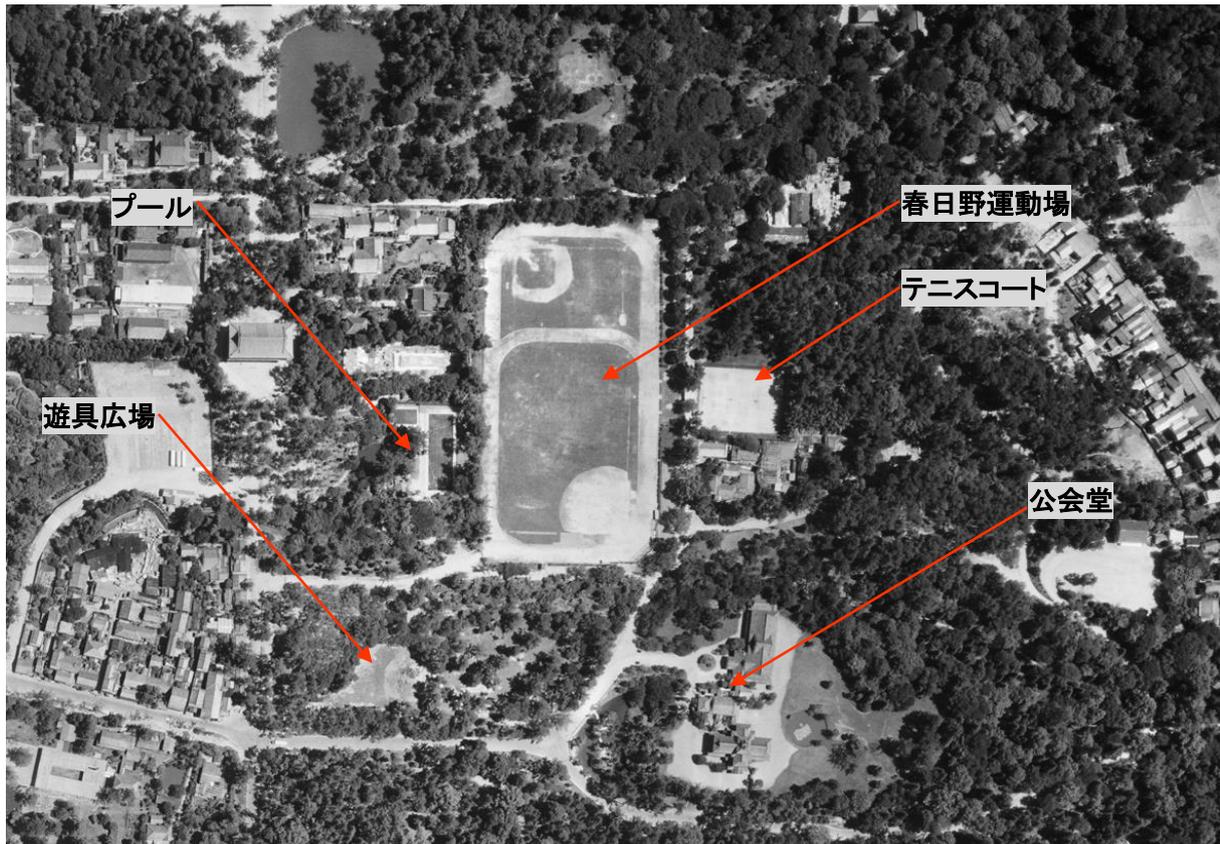
特性－2 歴史的な経緯

計画地は一部が史跡東大寺旧境内に含まれているが、現在の施設や植栽等は明治期の公園編入（1889）後またはシルク博（1988）開催後に整備されたもので、計画地内に歴史性の高い事物はない。

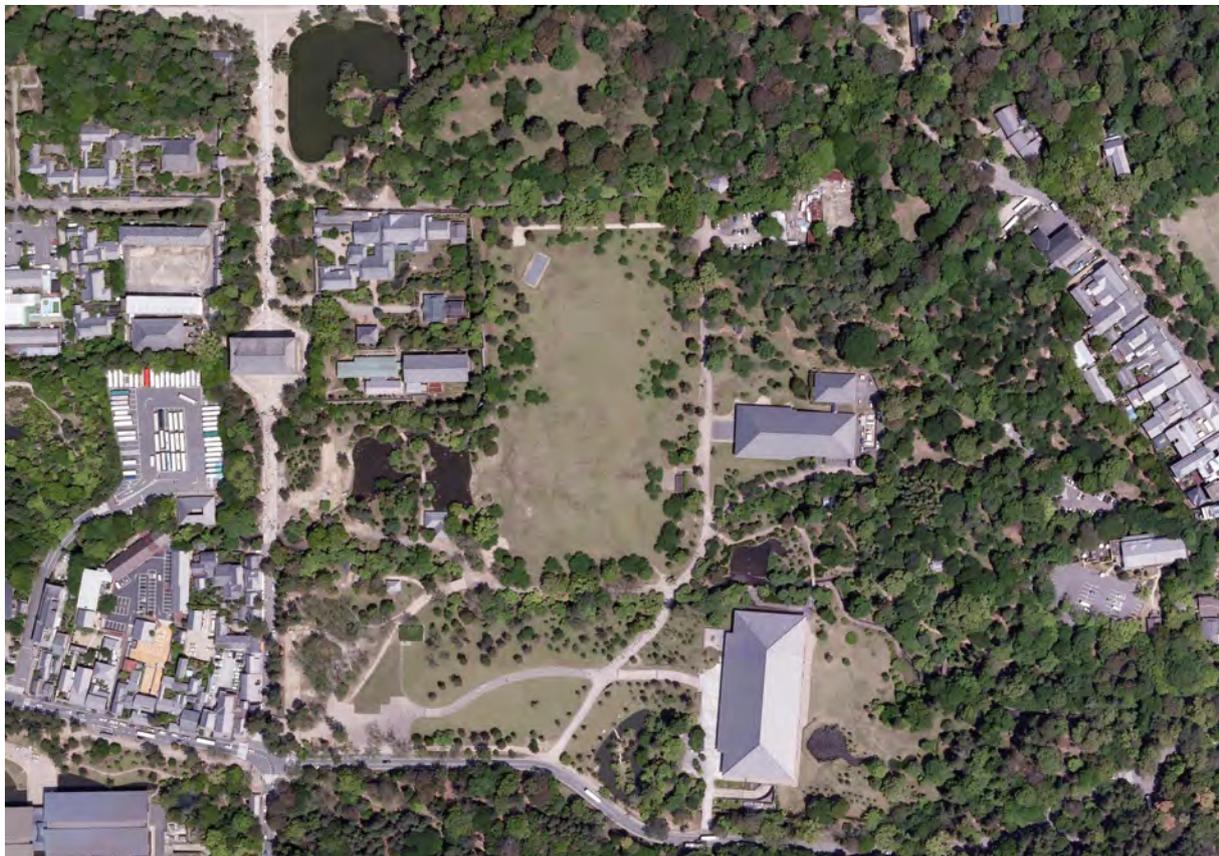
年次	内容
明治 13 年（1880）	・太政官布達により明治 13 年（1880）開設（※本計画地は含まれていない。）
明治 22 年（1889）	・春日野・浅茅ヶ原等の名勝地、東大寺・氷室神社等の寺社境内地、若草山・春日山等の山野を含む新奈良公園地（奈良県立奈良公園）を告示
明治 30 年（1897）	・公園平坦地、芳山に楓、桜、柳、松、百日紅、杉などを植樹
明治 36 年（1903）	・奈良県公会堂（1 号館）を整備
明治 43 年（1910）	・春日野運動場を整備
大正 14 年（1925）	・運動場東部を拡張して庭球場を整備
昭和 04 年（1929）	・春日野水泳場および児童遊戯場を整備
昭和 07 年（1932）	・東大寺旧境内を史跡に指定
昭和 62 年（1987）	・奈良県新公会堂（現国際フォーラム）を整備
昭和 63 年（1988）	・なら・シルクロード博の開催
平成 02 年（1990）	・春日野園地（春日野運動場跡）および浮雲園地・三社池（春日野水泳場および児童遊戯場跡）、奈良公園館（春日野庭球場跡、現国際フォーラム別館）として再整備

表：計画地の来歴年表 出典：「奈良公園史」

○航空写真で見る変化



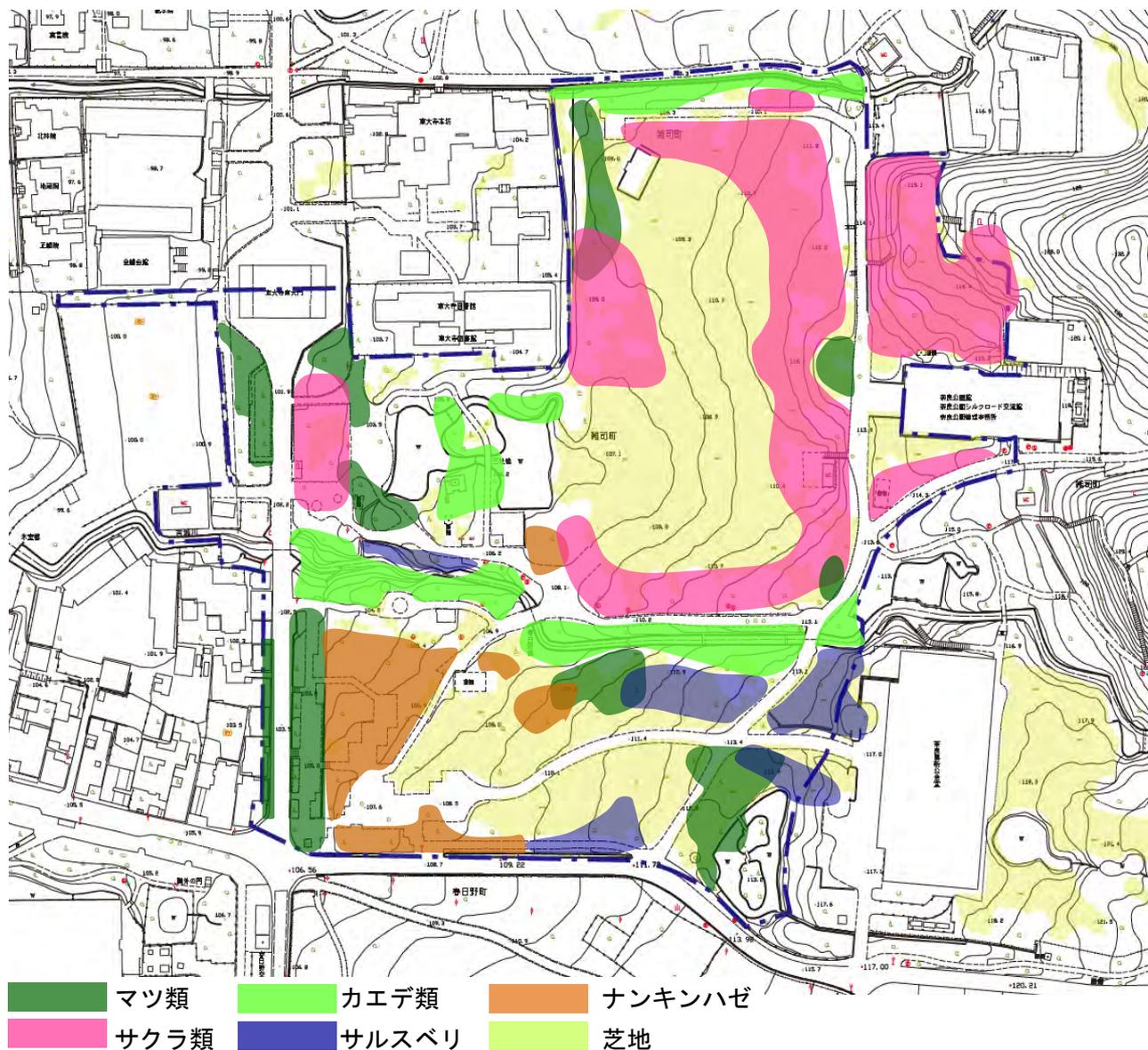
1961年6月19日（第二室戸台風被害直前） 出典：国土地理院 航空写真



2008年5月15日 出典：国土地理院 航空写真

特性-3 植栽の分布と生育状況

- ・計画地は、奈良公園内で最大級の広がりのある芝地が特徴である。
- ・主な樹種としてマツ類、サクラ類、カエデ類、サルスベリ、ナンキンハゼがあり、樹種毎にまとまって分布しており、それぞれに魅力ある特徴的な景観を作り出している。
- ・サクラ類は花見の名所として、カエデ類やナンキンハゼ等は紅葉の名所として知名度が高い。
- ・計画地内には、大仏殿参道付近を除き大木や古木は少ない。



図：主要樹木の分布



マツ並木：浮雲園地西端



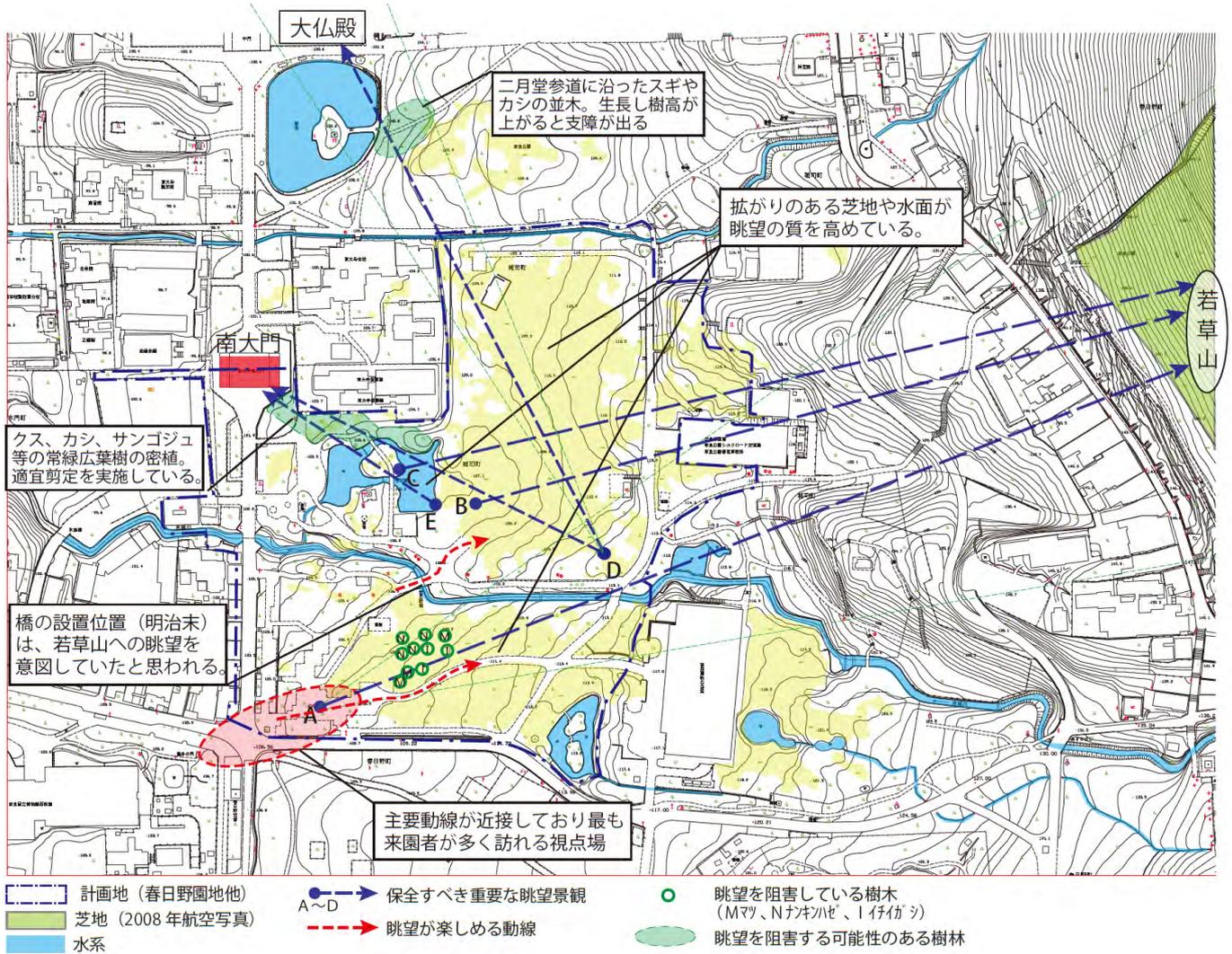
ソメイヨシノ：春日野園地



イロハモミジの古木：吉城川沿い

特性-4 眺望

- ・計画地は古くから眺望の良さが認められており、平成の再整備にはこの眺望を活かした空間がつけられた。
- ・この眺望の主な視対象は、若草山、東大寺南大門、東大寺大仏殿であり、良好な風致景観の中に歴史文化性の高い景観を形成している。



図：保全すべき重要な眺望景観



A浮雲園地南西端から若草山への眺望



D春日野園地南東端から東大寺南大門・大仏殿への眺望

(3) 計画方針

計画方針

「参道景観や眺望景観の保全と芝地や花木類の活用を基本に、
空間の連続性と調和に配慮して魅力ある植栽・景観をつくる」

大仏殿参道：東大寺南大門参道の歴史的な植栽・景観を保全する

- ・歴史のあるマツ並木を保全・継承する。
- ・歴史的建造物への眺望景観を保全する。

春日野園地・浮雲園地：芝地の拡がりを活かし、眺望景観や花木類の魅力を引き出す

- ・芝地の拡がりを保全・継承する。
- ・若草山や南大門、大仏殿への眺望景観を確保する。
- ・サクラの魅力を高めるため、土壌条件と配植を改善する。
- ・カエデ、ケヤキ、イチョウなど多彩な紅葉の魅力を高める。

浮雲園地西(ナンキンハゼ林)：

若草山への眺望景観を保全しつつ、大仏殿参道からの導入を促す空間に改修する

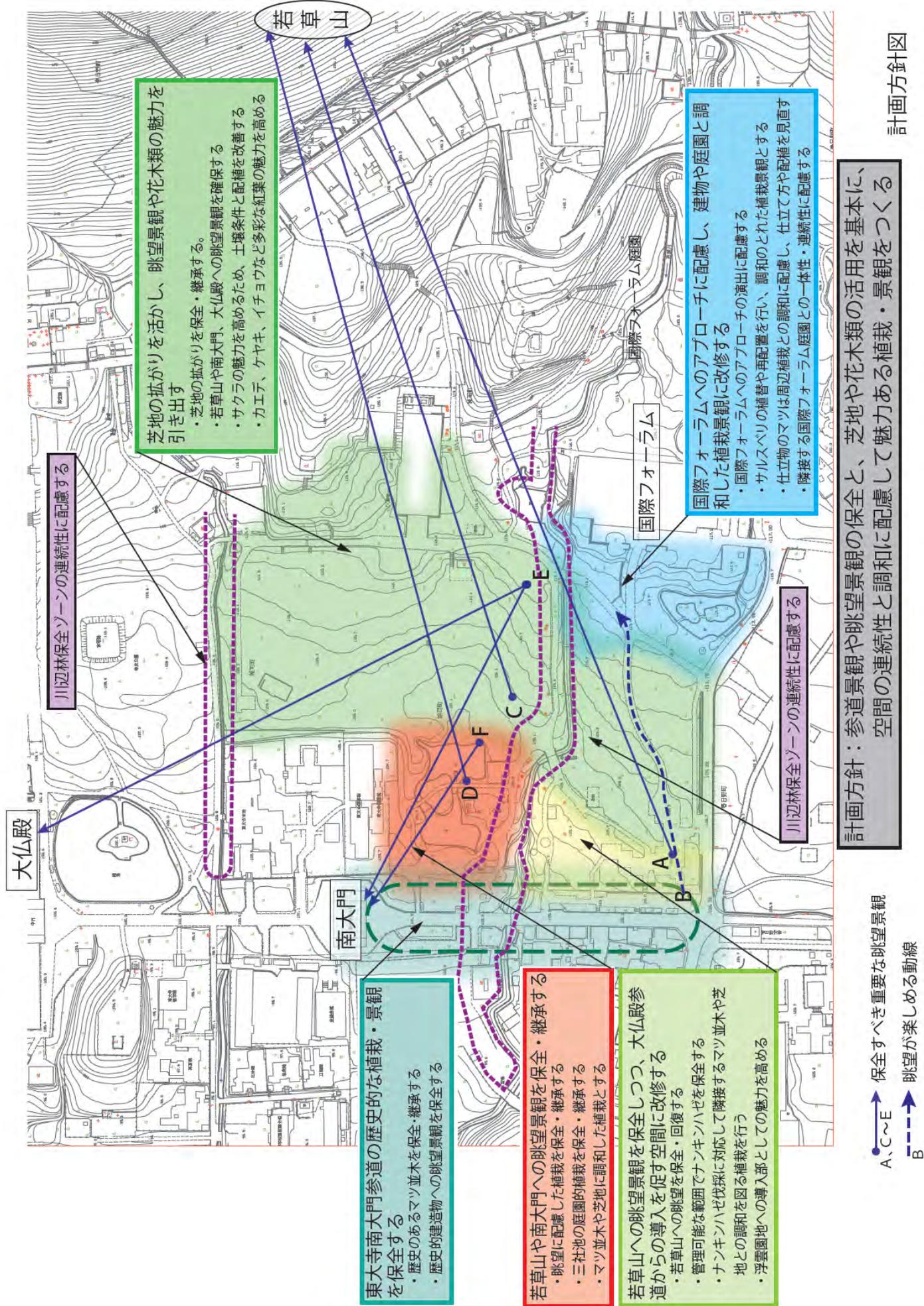
- ・若草山への眺望を保全・回復する。
- ・管理可能な範囲でナンキンハゼを保全する。
- ・ナンキンハゼ伐採に対応して隣接するマツ並木や芝地との調和を図る植栽を行う。
- ・浮雲園地への導入部としての魅力を高める。

国際フォーラム前：国際フォーラムへのアプローチに配慮し、建物や庭園との調和を図る

- ・国際フォーラムへのアプローチの演出に配慮する。
- ・サルスベリの植替や再配置を行い、調和のとれた植栽景観とする。
- ・仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す。
- ・隣接する国際フォーラム庭園との一体性・連続性に配慮する。

三社池周辺：若草山や南大門への眺望景観を保全・継承する

- ・眺望に配慮した植栽を保全・継承する。
- ・三社池の庭園的植栽を保全・継承する。
- ・マツ並木や芝地に調和した植栽とする。



図：計画方針図
68

(4) 計画目標の検討

1) 眺望景観を活かすサクラの配植

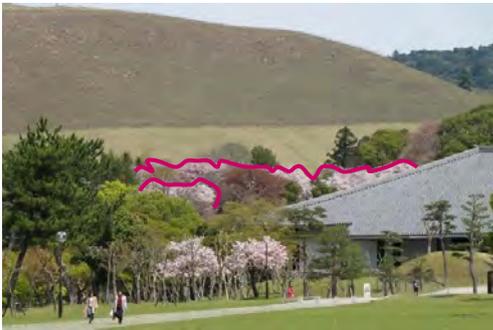
①配植の方針

眺望景観を活かすサクラの配植方針

- ・ 広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景をつくる。
- ・ 周辺の主要動線からサクラの景が見える配植とし、来園者の導入を図る。

計画地のサクラは重要な眺望景観の主要な構成要素になっている。その中でも東向きの若草山に向けての眺望では、隣接区域も合わせてサクラが幾層にも重なって見られる状況にある。この特性を活かし、奥行き感のあるサクラの景を作り出す配植とすることが望ましい。

また、計画地のサクラの配植は奥まっていることから、奈良公園の主要動線である大仏殿参道部から見えにくく存在が分かり難い。そこで、大仏殿参道部からマツ並木越しに見える位置にサクラを配することにより、来園者をサクラが楽しめる位置まで引き込むことが期待される。



計画方針-保全すべき重要な眺望点Aから山麓の尾根部のサクラが望める
H26年4月11日



計画方針-保全すべき重要な眺望点Cから傾斜部のサクラが樹木越しにちらりと見える
H26年4月11日

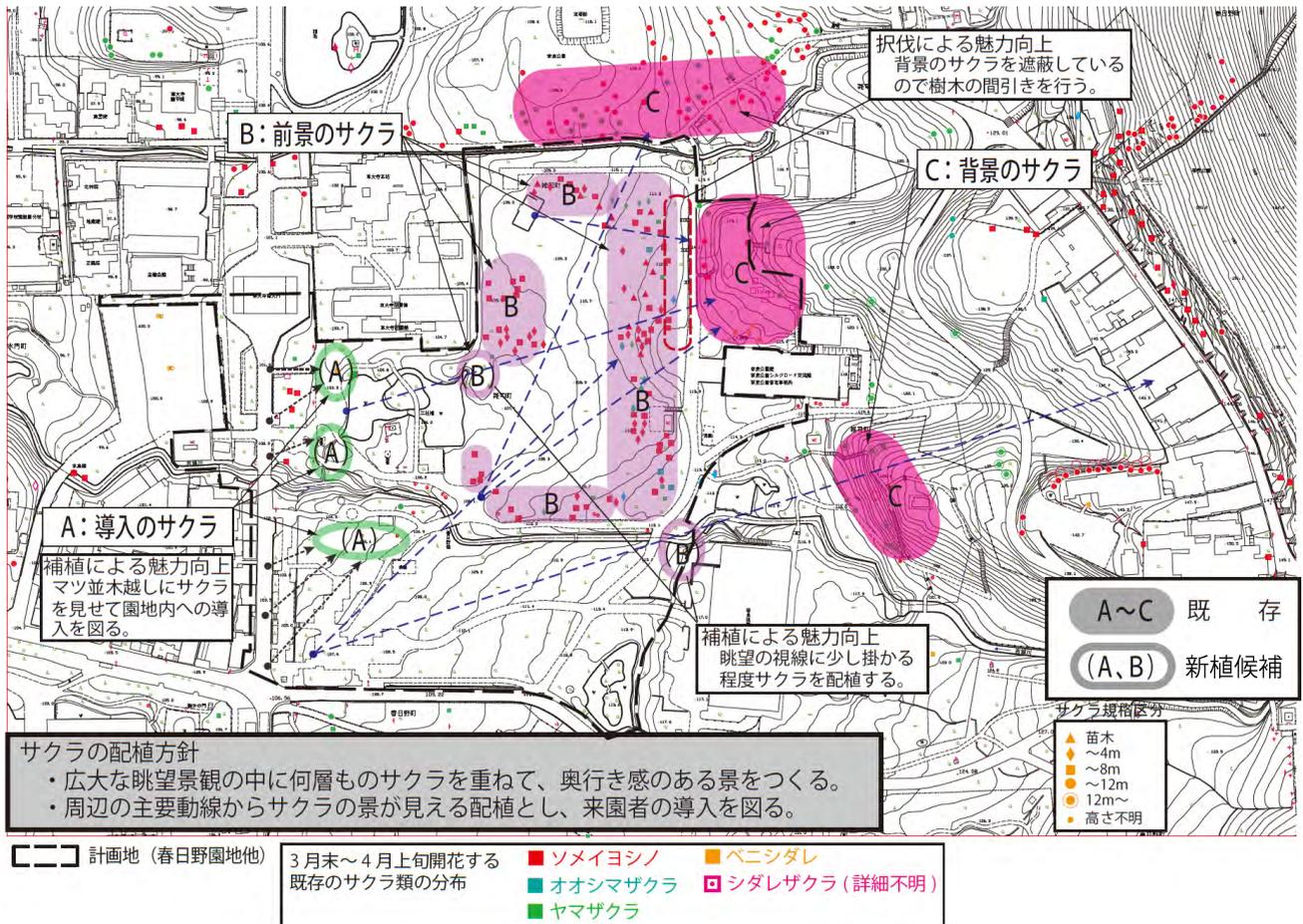


春日野園地南西角からの眺望：前面のサクラは見えるが、背景のサクラは見えない



春日野園地西からの眺望：クスノキとナンキンハゼが背景のサクラを遮蔽しているので択伐すべき

②具体的な配植（案）



図：桜と眺望景観を活かす配植（案）

2) 奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植

①配植の方針

奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植方針

モミジ、ナンキンハゼ、桜、サルスベリ、イチョウ、ケヤキなど

多彩な色合いの紅葉の景をつくる。

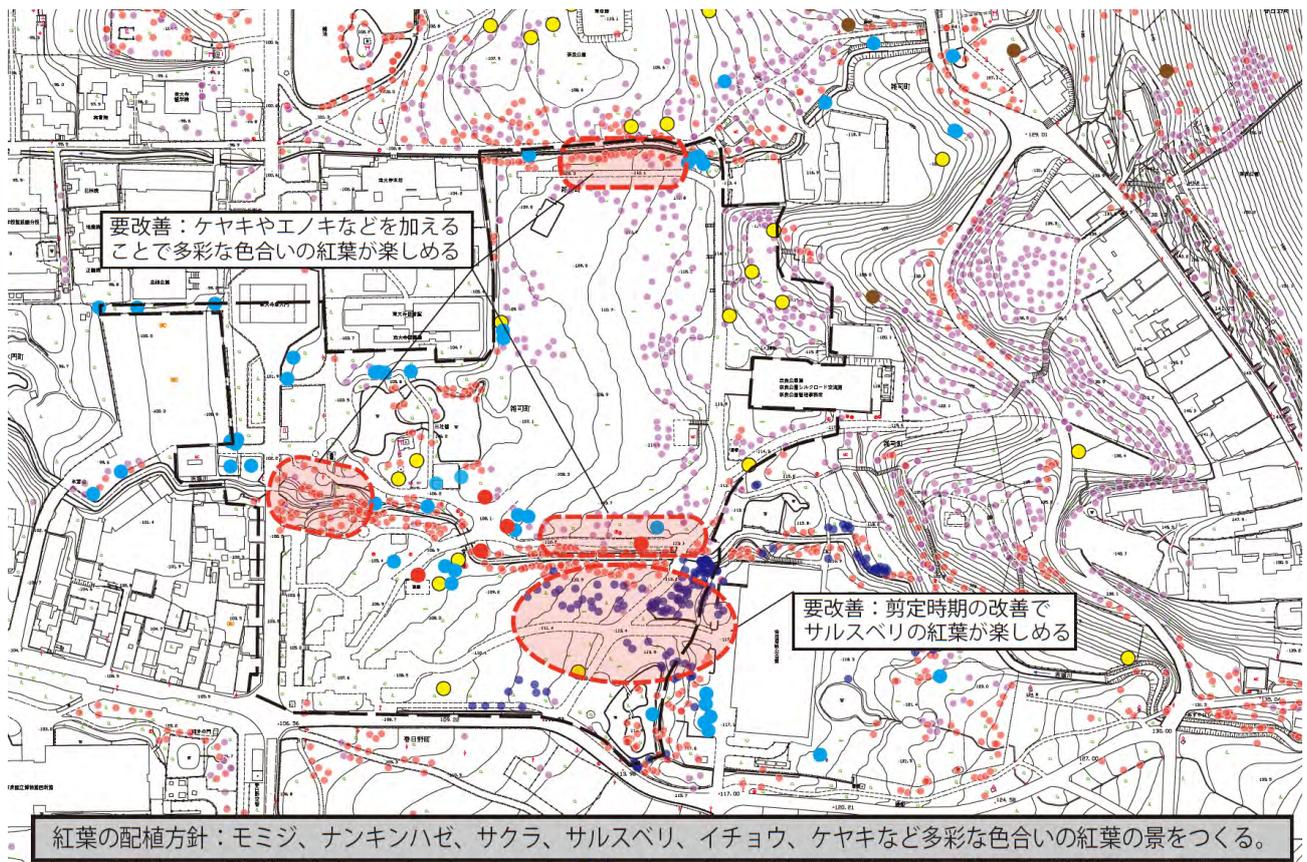
奈良公園の紅葉は、モミジ類だけでなく、ナンキンハゼ、桜、サルスベリ、イチョウ、ケヤキなど多様な紅葉樹木による多彩な色合いの紅葉の景が特徴である。この特長を活かした配植とすることが望ましい。

●紅葉する樹種と時期

樹種	紅葉時期			色調					備考	
	10月	11月	12月	濃赤	赤	橙	黄褐	黄		
計画地内に既存	ナンキンハゼ	■	■		●	●	●			
	ソメイヨシノ	■	■			●	●	●		
	ヤマザクラ	■	■			●	●	●		
	ナラノココノエザクラ	■	■		不明					大木になる性質がある
	ナラノヤエザクラ	■	■			●				
	イチョウ	■	■						●	
	サルスベリ		■			●	●	●		
	ケヤキ、ムクノキ、エノキ		■			○	○	●		
	カキノキ		■				●	●	赤い実が美しい	
	イロハモミジ		■	■	○	●	●	●		
奈良公園内に既存	ムクロジ		■				●	●	尾根部に多い	
	イヌシデ		■				●	●	尾根部に多い	
	コナラ		■				●	●	尾根部に多い	

参考図書：奈良公園の植物 北川尚史

②具体的な配植（案）



紅葉の配植方針：モミジ、ナンキンハゼ、サクラ、サルスベリ、イチョウ、ケヤキなど多彩な色合いの紅葉の景をつくる。

□ 計画地（春日野園地他）

紅葉する現況樹木（伐採候補樹木等は除く）

- カエデ類
- イチョウ
- コナラ・イヌシデ
- サクラ類
- ケヤキ・エノキ・ムクノキ
- サルスベリ
- ナンキンハゼ（保存候補）

出典：毎木調査（計画地内 H26 年度）、樹木分布調査（サクラ類、カエデ類 H25 年度）、巨木・大木調査（計画地外 H26 年度）

図：奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植（案）

3) 樹種更新するナンキンハゼ林部の配植

①配植の方向性

樹種更新するナンキンハゼ林部の配植方針

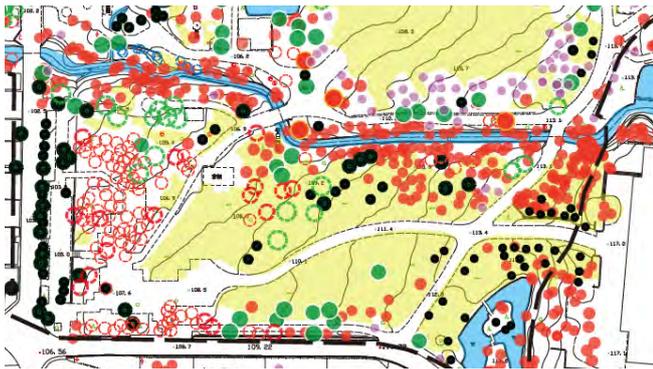
クロマツ疎林と芝地をベースに、眺望や花木の魅力をアピールする配植とする。

- ・ナンキンハゼ林部の西部分は、大仏殿参道クロマツ並木と同調するクロマツ疎林とする。
- ・ナンキンハゼ林部の東部分は、浮雲園地の芝地を拡大する。

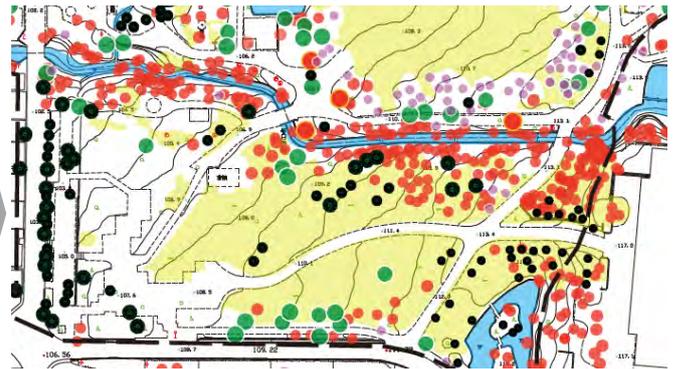
②配植の考え方

- ・ナンキンハゼは、一部の保存すべき大木を除いて全て伐採する。
- ・ナンキンハゼ以外は、樹種更新や眺望改善等のための伐採候補樹木は伐採する。
- ・前述「1) 眺望景観を活かしたサクラの配植」「2) 奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植」による伐採や補植を実施する。

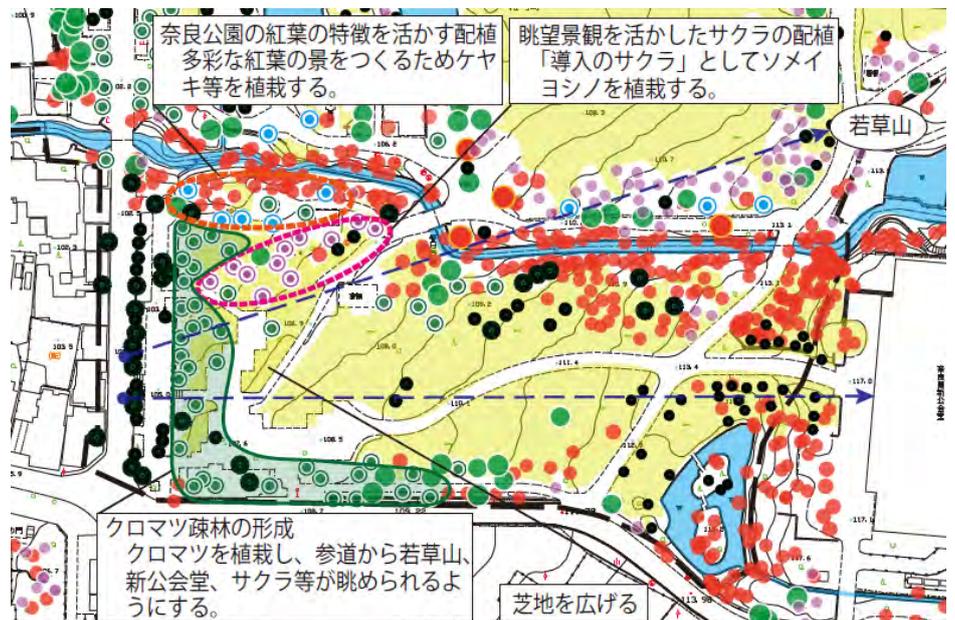
③具体的な配植 (案)



図：現況樹木の保存と伐採

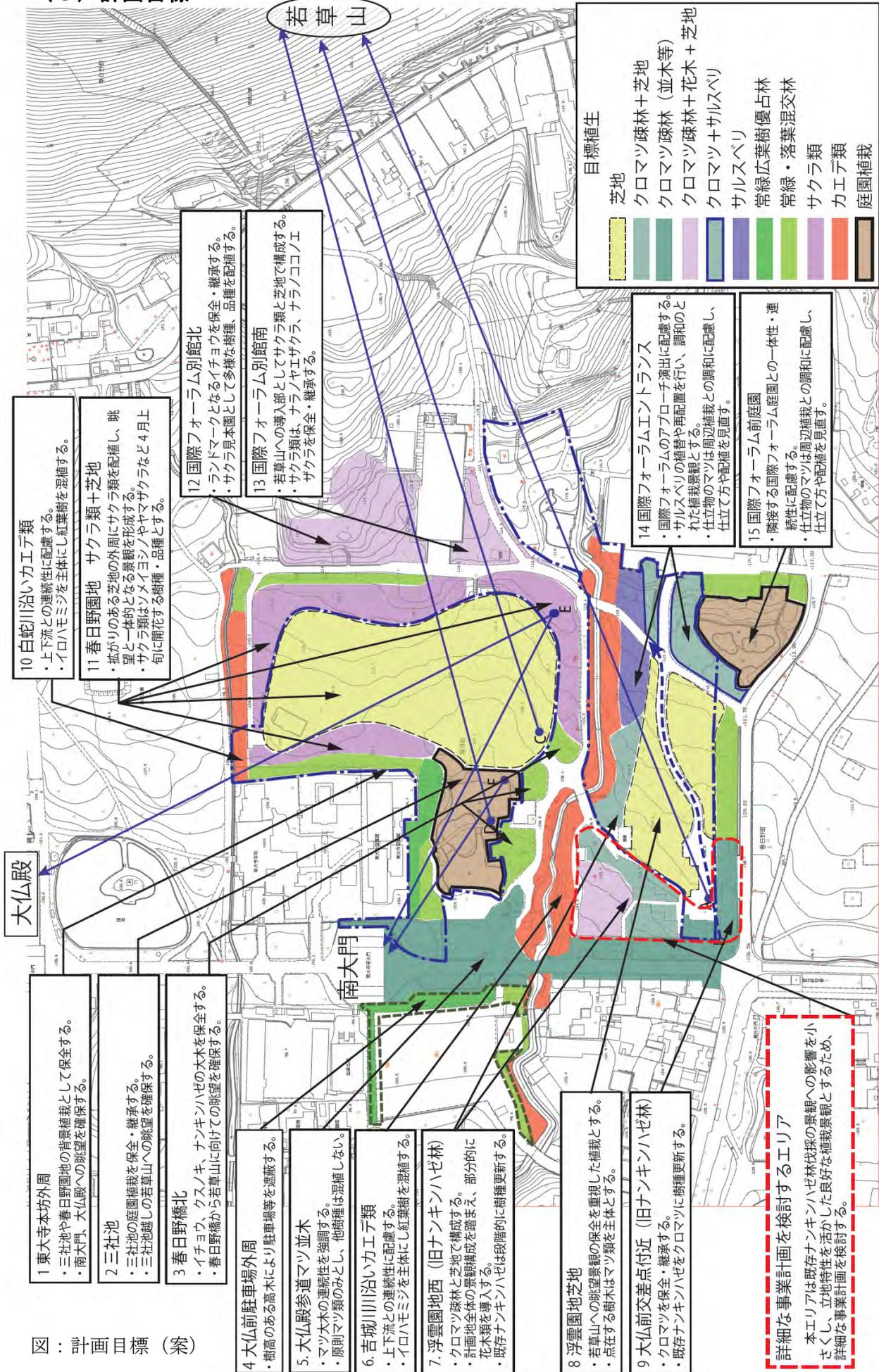


図：伐採候補樹木を取り除いた状況



図：将来の配植 (案)

(5) 呼画田補



10 白蛇川沿いかエデ類
 ・上下流との連続性に配慮する。
 ・イロハモミジを主体にし紅葉樹を混植する。

11 春日野園地 サクラ類+芝地
 ・孤がりのある芝地の外周にサクラ類を配植し、眺望と一体的となる景観を形成する。
 ・サクラ類はソメイヨシノやヤマザクラなど4月上旬に開花する樹種・品種とする。

12 国際フォーラム別館北
 ・ランドマークとなるイチョウを保全・継承する。
 ・サクラ見本園として多様な樹種・品種を配植する。

13 国際フォーラム別館南
 ・若草山への導入部としてサクラ類と芝地で構成する。
 ・サクラ類は、ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラを保全・継承する。

14 国際フォーラムエントランス
 ・国際フォーラムのアプローチ演出に配慮する。
 ・サルスベリの権曹や再配置を行い、調和のとれた植栽景観とする。
 ・仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す。

15 国際フォーラム前庭園
 ・隣接する国際フォーラム庭園との一体性・連続性に配慮する。
 ・仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す。

大仏殿

1 東大寺本坊外周
 ・三社池や春日野園地の背景植栽として保全する。
 ・南大門、大仏殿への眺望を確保する。

2 三社池
 ・三社池の庭園植栽を保全・継承する。
 ・三社池越しの若草山への眺望を確保する。

3 春日野橋北
 ・イチョウ、クスノキ、ナンキンハゼの大きさを保全する。
 ・春日野橋から若草山に向けての眺望を確保する。

4 大仏前駐車場外周
 ・樹高のある高木により駐車場等を遮蔽する。

5. 大仏殿参道マツ並木
 ・マツ大木の連続性を強調する。
 ・原則マツ類のみとし、他樹種は混植しない。

6. 吉城川沿いかエデ類
 ・上下流との連続性に配慮する。
 ・イロハモミジを主体にし紅葉樹を混植する。

7. 浮雲園地西 (旧ナンキンハゼ林)
 ・クロマツ疎林と芝地で構成する。
 ・計画地全体の景観構成を踏まえ、部分的に花木類を導入する。
 ・既存ナンキンハゼは段階的に樹種更新する。

8 浮雲園地芝地
 ・若草山への眺望景観の保全を重視した植栽とする。
 ・点在する樹木はマツ類を主体とする。

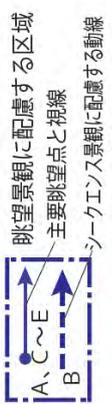
9 大仏前交差点付近 (旧ナンキンハゼ林)
 ・クロマツを保全・継承する。
 ・既存ナンキンハゼをクロマツに樹種更新する。

詳細な事業計画を検討するエリア
 本エリアは既存ナンキンハゼ林伐採の景観への影響を小さくし、立地特性を活かした良好な植栽景観とするため、詳細な事業計画を検討する。

目標植生

芝地	クロマツ疎林+芝地
	クロマツ疎林 (並木等)
	クロマツ疎林+花木+芝地
	クロマツ+サルスベリ
	サルスベリ
	常緑広葉樹優占林
	常緑・落葉混交林
	サクラ類
	カエデ類
	庭園植栽

計画目標 (案)



緩衝植栽

図：呼画田補 (案)